

◇9月の代祷・信施奉献先

▽わかちあい募金のため(NC  
C)▽山谷兄弟の家伝道所ま  
りや食堂の働きのため▽心臓病  
児保育活動のため(こくま園・  
こぼと園・こじか園)▽「子ど  
も食堂」の活動支援のため▽カ  
パティランの働きのため

◇執事按手式

10月2日(土)午後2時よ  
り聖アンデレ主教座聖堂に  
て、ヤコブ荻原充聖職候補生  
の執事按手式が行われます。  
教役者ご奉仕を担う信徒の  
方々で式を行います。主教  
座聖堂のホームページで動画  
が配信されますので視聴下  
さい。新しく叙任される執事  
を覚えてお祈り下さい。

◆主教ヨハネ竹田眞師父

ご葬儀について  
榛名・新生会ではしばらく静  
養生活を送ってこられました  
が、9月13日老衰のため逝去

され、9月17日、榛名聖公教

会・聖守護天使礼拝堂にて、  
高橋宏幸主教の司式、中村邦  
介司祭の説教、榛名聖公教会  
の聖職らが補式を務め、葬送  
式が行われました。感染症へ  
の対応のため、参列者も制限  
され、ご家族近親者による少  
人数の式となりました。出棺  
に際しては、路上で棺を見送  
られる同教会信徒の姿も見受  
けられました。

なお東京教区では、教区主

教の司式、教区教役者による  
逝去者記念聖餐式(非公開)  
が10月5日19時より行われ、  
その様子はインターネットを  
通じて聖アンデレ主教座聖堂  
ホームページより動画配信さ  
れることとなる。

またそれに先立って、同主

教座聖堂にご遺骨が安置さ  
れ、4日(月)および5日(火)  
の朝9時より17時までの間、  
どなたでも竹田主教を憶えて  
献花と黙祷をお献げいただけ

ることとなりました。なお、

お花料、ご供花は受け付けて  
おりません。  
またしばらく時を置いて、  
記念の式を聖公会神学院と教  
区で共催で行うことも計画さ  
れている。

巻末に葬送式当日の中村邦

介司祭による説教の全文を掲  
載します。  
◇パワーシフトキャンペーン  
ニュースレターNO4発行  
パワーシフトキャンペー  
ンニュースレターNO4

発行が発行されました。教

区ホームページからも閲覧  
できます。(https://www.  
nssk.org/tokyo/wp-content/  
uploads/2021/09/PSC-  
Newsletter-4.pdf)

◇被造物保護のための共同

メッセージ  
9月1日、東方エキュメ  
ニカル総主教バルトロメオ、  
ローマ教皇フランシスコ、カ  
ンタベリー大主教ジャステイ  
ン・ウェルビーによる「共同  
メッセージが出されました。

今週・来週の予定

9月26日~10月9日

- 26 (日) 聖霊降臨後第18主日
- 28 (火) 信仰と生活委員会 (web)
- 29 (水) 小平墓地委員会  
聖職養成委員会 (web)
- 10月
- 1 (金) 教区青年会 (web)
- 2 (土) 執事按手式  
(聖職候補生 荻原 充)
- 3 (日) 聖霊降臨後第19主日
- 4 (月) 竹田主教を憶えて (9時~17時)
- 5 (火) 竹田主教を憶えて (9時~17時)  
竹田主教レクイエム (教役者のみ)
- 9 (土) 会計、監査担当者懇談会 (web)  
環境保全・命を祝う祈り (web)

管区のホームページから閲覧できます。(https://www.nskk.org/province/blog-pdf/20210901message\_jp.pdf)

毎日変わっていく「気持ち」で聖書を読んで感じたことをシェアするのが、青年会流の聖書を読む会です！  
対象世代：18～35歳（※高校生除く）

【教区事務所開所時間について】  
開所日：月曜・水曜・金曜（休日を除く）  
開所時間：午前10時半～12時半  
午後13時半～15時半

【新型コロナウイルス感染症によって亡くなられた方々のため】  
永遠にいます全能の神よ、新型コロナウイルス感染症によって尊い命を失った方々の魂をすべての重荷から解放し、主の聖徒とともに永遠のみ国で安らかに憩わせてください。また、悲しみの中にある方々に主の慰めが与えられますように、命の贖い主である主イエス・キリストによつてお願いいたします

◇【教区青年会】10月の予定  
月3回すべての定例プログラムを引き続きオンラインで開催しています。

教会への所属は問いませんが、いずれの例会もオンライン開催に伴い、それぞれ参加条件があります。参加方法とあわせて、詳しくはSNSをご確認下さい。例会の1週間程度前になりましたら、詳細を投稿します。

【新型コロナウイルス感染症患者のため・医療看護に携わっている方々のため】  
世の救い主よ、主は十字架の苦しみによつてわたしたちを贖われました。どうか、わたしたち、ことにこの度の新型コロナウイルス感染症の苦しみに苦しむ人々を救い、癒しのみ手を差し伸べてください。また、医療と看護に携わる人びとの働きを助け導き、み力をもつてその人びとを守り、励ましてください。主イエス・キリストによつてお願いいたします

■金曜『テゼの歌といのりの集い』@Instaライブ  
日時：1日(金) 19～21時まで  
のどこか、約20分間開催  
予定です。時間は直前にSNS  
上でお知らせします。

Instagram/Twitter ↓@tko\_ seinenkai/Facebook ↓@tko\_ seinenkai)

主よ、世を去った人びとの魂が、主の憐れみによつて安らかに憩うことができますように アーメン

■水曜『食事会』@Zoom  
日時：13日(水) 19時30分～21時@ZOOM

問合せ: seinenkai.tko@gmail.com

主よ、世を去った人びとの魂が、主の憐れみによつて安らかに憩うことができますように アーメン

会をします！最近のことをみんなで話したり聞いたりしながら一緒に食事しませんか？

◇初陪餐  
9月19日 聖アンデレ教会  
▽小林早季子(聖アンデレ)

主よ、世を去った人びとの魂が、主の憐れみによつて安らかに憩うことができますように アーメン

■土曜『マルコごほん』  
日時：23日(土) 11時30分～13時@ZOOM

聖アンデレ教会

主よ、世を去った人びとの魂が、主の憐れみによつて安らかに憩うことができますように アーメン

13時@ZOOM

アーメン

【主教ヨハネ竹田眞師父

葬送式説教】

司祭 中村 邦介

祈り

私たちが敬愛してやまないヨハネ竹田眞主教は、こころばらく療養を続けていましたが、9月13日（月曜日）午前8時30分に91年にわたるご生涯を終えて、天のみ国に召されました。コロナ禍の状況にあつて、お見舞いもかなわず、最後のお別れを交わしたかったという思いを、多くの人は持たれていると思います。私も、もう一度お会いしたかった、との残念な思いで一杯です。竹田眞主教のご逝去の知らせを受けた時、「ついにその時が来てしまったか」と覚悟はしていました。それでも、旧約聖書の中でエリヤとの耐え難い別れを惜しんで、エリヤがどこまでもエリヤの後を追って、まるで駄々をこねる子供のような心境になつて

しまうのです。

竹田眞主教は、1930年6月15日に聖ルカ病院のチャプレンであつた竹田眞二司祭とお連れ合いの三枝さんの五人の兄弟・姉妹の長男として築地で誕生されました。非常にまじめで実直な眞二先生と自由で闊達な三枝さんに深く影響を受けて、竹田少年は育つたと思います。日本の敗戦時には15歳の中学生で、いわゆる戦中派に属している世代です。そのためその影響はとても大きかったと思えます。基本的に大人の言うことや世の中の通説を信用できなくなり、勇ましい、大言壮語するような話やもつともらしい話を信じない、非常に冷めたところが、竹田主教にはありました。

くに勧められて、聖公会神学院に入学し、聖職への道を志すことになりました。卒業後、しばらくして当時、神学の巨匠たちが教えていたニューヨークのユニオン神学大学に留学されました。そして帰国後でしょうか、最も辛辣な説教の批判者であつたバーバラ公子さんと結婚し、青年牧師として八王子復活教会や浅草聖ヨハネ教会で働きました。更に大きな転機は、大学闘争が吹き荒れた70年代に、新たな神学教育の改革の担い手として聖公会神学院校長に任命されたことです。1970年から1988年までの実に18年間、その職務を担いました。その後はご存じのように東京教区主教に按手され、やがて首座主教にも選出され、女性司祭の実現や信徒の奉仕職など、多くの課題に中心的な職責を果たされました。

定年後、以前から夢見ていたログ・ハウスの住まいを榛名の地で過ごされることになりましたが、残念なことにその新居の完成前にお連れ合いの公子さんが、一足早く天に召されました。しかし榛名での生活と時々東京にも滞在されて、元気に榛名での余生を楽しまれてお過ごしのように感じました。

竹田主教の不思議な魅力は、会う人に合わせて絶妙に話し方を変えるところにあります。聞くところによると女性、特に若い女性と話すとき別人のようになるとの幾つかの信頼すべき目撃情報があります。ともかく主教の言葉一つ一つにユーモアとウィットがあり、時に感心させ、時に惑わし、時に煙に巻くという変幻自在の座談の名手でした。同僚の佐々木道人司祭とよく話すのですが、主教は自慢話やうまくやった成功した話ばかりで、私たちがよく聞きたのかわからずお互いに顔を

と首をかしげるばかりでした。私は校長室に行つて、「私の発表はまだ終わっていません、どうして途中いなくなつたのですか」と憤然と尋ねると、竹田校長は「君の発表は聞いていられない」と吐き捨てるように言うのです。私は「一体何が問題なのですか、それを指摘すればよいではないですか」と反論しました。すると校長は「君はここで何のために勉強しているのか」と問いかけるので、「私はよい牧師になりたいと、一生懸命取り組んでいるのです」と答えると。「ここでの学びは、君が考えているようなものと違う、君の学び方は、ひたすら知識を詰め込んで自己武装するための学びではないのか」と。私は言葉を失いました。「その通りだったからです」その後、長い夏休み期間中、校長の言葉を何度も反芻しました。自分の召命感を

根本から問われていると思ひました。夏休みが終わり、再び校長室を訪ね、「校長の言葉を私なりに考えました。この学びは自分ためではなく、仕えるために学ぶことであつて、教会や人々のために仕えるために学ぶことを忘れていました」と述べると、校長は非常に短く「それがわかればそれでよい」と答へが返つてきました。それは私の学び方そして召命感に深く突き刺さる棘のような言葉でした。そしてそれは、その後の私の歩みにおいても繰り返し自己反省を促し続けてきました。

から学ぶことを一貫して強調しました。そのために実習や「フィールド・トリップ」を重視していました。また聖職の働きは一にも二にも『奉仕職』であり、仕えることに尽きることもよく語られていました。更におそらく日本聖公会において初めてフィリピンにおいて初めて韓国の関係に構築する働きを行いました。その他日本神学教育連合、聖公会東南アジア神学教育協議会の働きに精力的に取り組んでおられました。これらのアジアとのかかわりについて、主教はある時の話で、自分には言い尽くせない深い悔恨（コンチリサン）、コンチリサンとは潜伏キリシタンの信仰で深く赦しを乞ひ願うことですが、このコンチリサンが根底にある、と述べられておりました。この悔恨こそ、私たちがまた竹田主教から継承しなければならぬ重要な

課題です。私は、主教からの様々な教えを思い返す中で、主教の信仰のアイデンティティを最もよく表しているのは、先ほど朗読して頂いた旧約聖書（列王記上19章1-18）の物語だと思ひます。

紀元前9世紀、エリヤはアハブ王とアハズヤ王の頃に活躍した預言者でした。この頃かたはほどに神ヤハウエ信仰の危機の時代でした。それはアハブ王がフェニキアの王エトバアルの娘イゼベルと結婚したためでした。イゼベルはいわば遅れた国イスラエルを近代化して停滞した国を変えようとして乗り込んできた礼拝を強く奨励したのです。このような状況でエリヤはカルメル山で、「バアルが神か、ヤハウエが神か」とバアルの預言者と有名な対決をして、劇的な勝利を得ました。ところがこのことに激怒したイゼベルにエリヤは命を狙われることとなります。逃げまどい消耗尽くしたエリヤはそのため自死を願うほどに追い詰められるのです。やがてエリヤは逃亡を続ける内に神の山ホレブに導かれ、ある洞穴に身を隠します、するとそこでエリヤは不思議な経験をします。主がエリヤの前を通り過ぎるのです。激しい嵐と地震が起こり、炎が立ち上るのですが、しかしその中には主はおられないのです。ただ炎の後に「静かにささやく声」が聞こえるのです。英語では Still Small Voice です。竹田主教はこの「静かな細き声」 Still Small Voice のエピソードをよく語られました。エリヤはそれまで神の力を嵐や地震や炎のような圧倒するような強大な力と理解していたのです。そのためにエリヤ

は、それを求めて預言者として極度の自信喪失に陥ったのです。しかし神の力をエリヤは決定的に誤解していたのです。思い違いをしていたので、神の力はそのような絶大な圧倒的な目を見張るような力としてではなく、聞き逃しかねない、静かな細き声に示されるのです。竹田主教の信仰は、このようなエリヤがホレブで経験した神の力への信仰でした。静かなささやく声に臨在する神への信仰、これが主教の信仰とミニストリーのアイデンティティでありました。それはまた福音書に告げられるイエス・キリストへの信仰につながっていきま

於 榛名聖公会

す。思い違いをしていたので、神の力はそのような絶大な圧倒的な目を見張るような力としてではなく、聞き逃しかねない、静かな細き声に示されるのです。竹田主教の信仰は、このようなエリヤがホレブで経験した神の力への信仰でした。静かなささやく声に臨在する神への信仰、これが主教の信仰とミニストリーのアイデンティティでありました。それはまた福音書に告げられるイエス・キリストへの信仰につながっていきま

エスから離れていき、弟子たちにも見捨てられ、ついには苦難の十字架につけられる、そのようなイエスが証言されています。それは神の全能、オールマイティによるのではなく、人々のためにどこまでも苦しむことができる愛なる神の全能こそが、イエス・キリストが示された神の力ではないかと主教は言われるのです。そして聖公会が大事にしている「使徒伝承」とは、主教が尊敬してやまなかったマikel・ラムゼー大主教に倣って、主教制などの制度的職制にあるのではなく、この「キリストの受難」の伝承こそ、本来の「使徒伝承」の意味であるとも力説しておられました。

今日日本聖公会は大変大きな転機に直面しています。信徒も聖職も減少し、財政的にも大きな困難を抱えています。このような日本聖公会に最も大切なことは、竹田主教が生涯耳を傾けてきた「小さなささやくような声・Still Small Voice」への信仰であると思います。大きな時代の動きの中で、人々の「小さな細き声に耳を傾け続け、仕えていくこと、このことにあると信じます。目を見張るような、目覚ましい成功物語に惑わされることなく、小さな声にならない声に耳を傾け神の声を聴き届けようとする信仰に、私たちもヨハネ竹田眞主教を天にお見送りする中で、共に確認しつつ歩んで参りたいと願います。竹田眞主教のご家族、近親者またその死を悼んで多くの方々の上に、心から神の慰めと励ましをお祈りいたします。またコロナ禍の中で主教のために忍耐強く最後までケアをし続けて下さった榛名新生会の皆様にお礼と感謝を申し上げます。

願わくは主教ヨハネ竹田眞